

ピアノ特別公開レッスン

リスト音楽院教授 グヤーシュ マールタ先生

昨年に引き続き、リスト音楽院よりグヤーシュ マールタ先生をお迎えして、

ピアノ特別公開レッスンを開講しました！！

(リスト・フェレンツ音楽院室内楽学科准教授・ソフィア王妃音楽大学ピアノ科 室内楽科教授・国際室内音楽研究所室内楽 ピアノ教授)



公開レッスン①

石井 心花(3年生)

メンデルスゾーン作曲:

幻想曲『スコットランドソナタ』

Op.28 第2,3 楽章

レッスンを通して、テンポ・強弱・アクセントの意味を考えることや、指の意識、曲作りについてなど、様々な観点から指導していただきました。

～生徒の感想より～

・テンポの速い曲を演奏すると、指だけが動いて耳では聴いていないということが起こってしまいがちですが、曲の中でどんな要素があるのか、1つずつの要素をどう演奏したいのか、見落とさないようにしっかり耳で聞いて演奏していくことが大切だと再確認することができました。

・『音の数が多くても少なくてもすべての音にエネルギーが必要』というマールタ先生の言葉を聴いて、曲や作曲家への尊敬の意味をこめて、すべての音を大切にしていきたいです。

・『3』という数字はヨーロッパでは重要な意味を持つ数字で物語などでも変化があることが多いと知りました。曲の構成でも3回目に変化が訪れること、同じフレーズが3回繰り返された場合は3回目に変化が起こるように演奏するということを聴いて、早速自分の演奏に取り入れたいと思います。





公開レッスン②

清水 愛子(3年生)
ベートーヴェン作曲:
ピアノソナタ第15番 Op.28
『田園』第1楽章

ベートーヴェンの作品を演奏する時に留意することや、演奏を立体的にするために大切なことをレッスンしていただきました。



～生徒の感想より～

・ベートーヴェンは主題の部分でとても特徴的な左手と右手の掛け合いの部分とうまく掛け合わせるだけで、音楽の方向性がとても分かりやすくなりました。この時に大切なのは、どのように指揮をするか、常にどこが1拍目なのか、どこまでが1フレーズなのかを考えることです。わかっているつもりでしたが、自分の意識が行き届いていなかったのだと再確認できました。はやくピアノで実践したくなりました。

・ペダルの使い方について、①まとめて聴こえるようにする ②長いパッセージの中に拍子感を出す ③ビブラートをつける という3つの使い方を教えていただきました。マルタ先生が③の使いかたを実演した時に聞こえた全音符では、ペダルを使うことで、 になっていました。このペダルのテクニックを私も身に付けていきたいです。

・「ピアニストはオーケストラをつくり、指揮をする」という言葉から、日々私たちは練習でオーケストラを作り、本番では創り上げたオーケストラの指揮をしているのだと思いました。練習では、感動したり、感情を爆発させて道をつないだりすることで、本番はその道を通ればよいのかなと思いました。自分の中に感情と感動を作り出す演奏家と、指揮をしていく自分の2人を心の中に置いておきたいと思います。



親指の使い方や効果的な練習方法を教えていただきました！



聴講した生徒からの質問に
こたえていただきました♪

音楽科の生徒たちとの一枚♪
マルタ先生ありがとうございました♪

今回の公開レッスンでは、昨年に引き続き
国際音楽交流会 Musica Con Tutti のみなさまにご協力して
いただきました。貴重な機会をありがとうございました。

